

### Ⅲ. 各部門別の生産と販売の概要

#### 1. 湯浅農場

##### 1) 柑橘部門

担当 堀川勇次

##### (1) 概況

早生ウンシュウミカンの‘宮川早生’を約237 a、普通ウンシュウミカンの‘林温州’を約35 a栽培している。樹齢は36～49年生で、古い樹は改植時期にきている。施肥、薬剤散布とも農用機械で行っているため、農用機械が走行できる通路を確保する必要があり、植栽本数は10 a当たり約120本と少ない。

##### (2) 栽培の概要

病虫害防除、施肥および除草剤散布実績は第2表、第3表および第4表の通りである。

第2表 柑橘の病虫害防除実績

防除時期	農薬名	倍率	対象病虫害名
3月7日	トモノールS	60	カイガラムシ類、ハダニ類
4月9日	IC ボルドー66D	40	かいよう病
5月7日	アドマイヤーフロアブル	3,000	アザミウマ類、アブラムシ類
	ロディー乳剤	2,000	アブラムシ類、シャクトリムシ
5月19日	アブロード水和剤	1,000	カイガラムシ類
	ストロビードライフロア	2,000	灰色カビ病、そうか病、黒点病
6月4日	エムダイファー水和剤	600	黒点病
	モスピラン水溶剤	3,000	アザミウマ類、アブラムシ類
6月23日	ジマンダイセン水和剤	400	黒点病
	トモノールS	200	カイガラムシ類、ハダニ類
	スピノエースフロアブル	6,000	アザミウマ類
	スプラサイド乳剤 40	1,000	カイガラムシ類、ゴマダラカミキリ
7月17日	ジマンダイセン水和剤	400	黒点病
	アドマイヤーフロアブル	3,000	アザミウマ類、アブラムシ類
	サンマイト水和剤	3,000	チャノホコリダニ、サビダニ
8月10日	エムダイファー水和剤	600	黒点病
	ハチハチフロアブル	2,000	アザミウマ類、サビダニ
	スプラサイド乳剤 40	1,000	カイガラムシ類、ゴマダラカミキリ
9月12日	ジマンダイセン水和剤	400	黒点病
	ダニエモンフロアブル	4,000	ダニ類
	スピノエースフロアブル	4,000	アザミウマ類
10月3日	リドミルゴールド	1,000	褐色腐敗病
11月8日	ベフラン液剤	2,000	貯蔵病害
	ベンレート水和剤	3,000	貯蔵病害

第3表 柑橘の施肥実績

	施肥時期	肥料名・施肥量	N－P－K成分量
春肥	4月5日	フィッシュプロテイン	9.6－9.6－6.4
秋肥	11月1日	フィッシュプロテイン	10.8－10.8－7.2
合計		10a 当たり 340	20.4－20.4－13.6

## (3) 収穫および販売状況

今年は雨が多かったにもかかわらず、小玉傾向であった。糖度は約 11 度と高かった。収量は約 110 t であったが（第 4 表）、11 月 14 日の朝、短時間に降った霰により、約 3 割の果実が被害を受けた。収穫した果実は主に学内で販売し、一部はジュース加工に使用した。

第4表 最近3年間の柑橘の収量

	収量 (t)
2010 年	70
2011 年	140
2012 年	110

2) マンゴー部門

藤田卓也

(1) 概要

‘アーウィン’をハウス 20 a で栽培している。2012 年は冬の気温が低く，開花時期は 4 月中旬であった。

(2) 栽培の概要

時期別作業内容，施肥実績および病虫害防除実績は第 5 表，第 6 表および第 7 表の通りである。

第 5 表 マンゴーの時期別作業内容

時 期	生 育 相	作 業 内 容
1 月上旬	花芽形成	除草(除草剤使用) 飛び花切除
2 月	花芽形成	芽かき
3 月下旬	出蕾期	春肥施用
4 月上旬	開花期	花穂吊り上げ
中旬	開花期	花穂吊り上げ
下旬	開花最盛期	
5 月下旬	結実期	灰色カビ病対策のため花弁落とし
6 月	果実肥大期	摘果，果実吊り上げ，遮光ネット被覆
7 月上旬	果実肥大期	摘果，果実吊り上げ
8 月上旬	収穫初期	収穫（朝・夕 2 回），出荷（午前中）
8 月下旬	収穫最盛期	収穫，出荷
9 月上旬	収穫終期	収穫，出荷
9 月中旬	せん定期	せん定
9 月下旬	秋芽発芽期	施肥
10 月	新梢充実期	新芽の調整，芽かき

第 6 表 マンゴーの施肥実績

施肥時期	肥料名・施肥量	10a 当り施肥量	N-P-K 成分量
3 月 9 日	フィッシュプロテイン	60	3.6-3.6-2.4
5 月 21 日	オーケイ加里	30	0.0-0.9-4.5
9 月 25 日	さざなみ有機	80	6.4-9.6-8.0
合計			10.0-14.1-14.9

第7表 マンゴーの病虫害防除実績

防除時期	農薬名	倍率	対象病虫害名
2月16日	コテツフロアブル	2,000	スリップス類
3月22日	ベルコート水和剤	1000	炭そ病
	スピノエース顆粒	3,000	スリップス類
4月13日	モスピラン水溶剤	2,000	スリップス類
	ストロビードライフロアブル	2,000	灰色カビ病
5月1日	モスピラン水溶剤	2,000	スリップス類
	ストロビードライフロアブル	2,000	灰色カビ病
5月25日	スピノエース顆粒	4,000	スリップス類
	スミレックス水和剤	1,000	軸腐病
6月15日	アクタラ水和剤	2,000	スリップス類
	ストロビードライフロアブル	2,000	炭そ病
7月11日	ダントツ水和剤	2,000	スリップス類
	アミスター10フロアブル	1,000	炭そ病
9月26日	i c ボルドー66D	100	かいよう病
	ダントツ水和剤	1,500	アザミウマ類
10月26日	i c ボルドー66D	100	かいよう病
	アーデント水和剤	1,000	スリップス類
11月9日	サンマイト水和剤	1,000	ホコリダニ

## (3) 収穫および販売状況

収穫時期は、昨年と同様に早かったが、収穫量は前年度よりも多かった（第8表）。市場に出荷し、大阪や神戸などの百貨店で販売されている。今年度は、2級品と3級品の小箱を学内販売した。

第8表 最近3年間のマンゴーの販売量

	販売量(kg)
2010年	888
2011年	1915
2012年	1981

## (4) 愛紅の市場出荷

志水恒介

新品種‘愛紅を千疋屋総本店(東京都中央区日本橋室町2-1-2)へ初めて出荷し、2012年8月26日から販売された。愛紅は‘金煌(キンコウ)’に、国内の主力品種である‘アーウィン’の花粉を自然交配させて育成した品種で、2004年に出願登録、2008年に登録された（登録番号第16162号）。

品種の特徴としては、果実は‘アーウィン’より縦長で、一回り大きく（500～700 g）、果皮は鮮紅色、果面は滑らかで、剥皮しやすい。果肉は黄橙色で完熟させると果肉繊維を殆ど感じさせないほど軟らかく、プリンのような滑らかな食感が特徴である。収穫時期は‘アーウィン’より遅いが、糖度は16～17%で、果汁も多く、食味が良い。今年度は約160 kg（約300個）出荷した。

今後は栽培面積を増やし、増収と安定した供給ができるように努めたい。

### 3) ウメ部門

担当 友廣教道

#### (1) 概況

2011年12月末日時点では、面積約20 aに大梅（南高梅，他34本），小梅16本を栽培している．

#### (2) 栽培の概要

病虫害防除実績は第9表の通りである．

第9表 ウメの病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病虫害名
4月4	バリヤード顆粒水和剤	4,000倍	アカマダラケシキスイ
	マイコシールド水和剤	1,500倍	かいよう病
	スコア顆粒水和剤	3,000倍	黒星病
4月3日	スカシバコン		コスカシバ雄成虫
4月18日	モスピラン水和剤	4,000倍	アブラムシ類
	ベルクート水和剤	2,000倍	黒星病
	スターナ水和剤	1,000倍	かいよう病
4月30日	マイコシールド水和剤	4,000倍	かいよう病
	オーソサイド水和剤	1,500倍	黒星病
	バリヤード顆粒水和剤	2,000倍	アブラムシ類
5月12日	スターナ水和剤	1,000倍	かいよう病
	ダントツ顆粒水和剤	2,000倍	アブラムシ類，ケムシ類
6月11日	スターマイト顆粒水和剤	2,000倍	ダニ類

#### (3) 収量および販売実績

南高梅（写真）の収量は約1,100 kgであった．その内，生果で450 kgを学内に出荷し，残りの果実は梅干および梅シロップ等の加工用に供した．また，小梅の収量は約250 kgであり，果実は梅干として加工した．

今年も昨年と同様に，梅干と梅シロップを生産し，農学部祭および生物理工学部祭での即売会や，学内販売等を行った．

今後，生果で梅（未熟，あるいは完熟果）を出荷する時のロスを如何に少なくできるか，すなわち，病虫害の減少，キズ等の防止をさらに努める一方，生果で出荷できなかった果実については，加工食品に供する予定である．

#### 4) 水稻部門

担当 友廣教道

##### (1) 概況

約 160 a の水田に、イクヒカリ 100 a, キヌヒカリ 60 a を栽培した。

##### (2) 栽培の概要

周辺の水管理と足並みを揃えるため、昨年度とほぼ同様時期の 5 月 1 日に種籾を塩水洗し、その 1 週間後の 5 月 8 日に播種した。本年度は例年に比較して外気温が低温であったため、育苗箱内外での発芽および生育が遅れ、田植えを播種 28 日後の 6 月 5 日から行った。さらに、梅雨時期には、天候不順で稲の生育も遅れたが、初穂時には例年並みの大きさに育った。また、病害虫の発生もみられなかった。稲の生育も前半遅れる一方、水田内の雑草の発育も同様に遅れたため、中後期雑草に対する除草剤のハイカット 1 キロ粒剤の使用も水田 1 枚だけであった。病害虫防除および除草剤散布実績は第 10 表および第 11 表の通りである。

##### (3) 収穫および販売

水稻の収量は、30 kg 入の玄米袋数でイクヒカリ 138 袋、キヌヒカリ 84 袋であった（第 12 表）。個人販売に加え、今年も全学部、農学部祭および生物理工学部祭で、白米および玄米約 1,250 kg を販売し、好評を得た。

第 10 表 水稻の病害虫防除および除草剤散布実績

防除時期	農薬名	倍率・使用量	対象病害虫名
5 月 1 日	スポルタック乳剤	1,000 倍	ごま葉枯病, いもち病
	バイジット乳剤	1,000 倍	イネシンガレセンチュウ
6 月 11 日	ショウリョク S 粒剤	3 kg/10 a	スクミリンゴガイ
6 月 29～30 日	パダンバッサ粒剤	3 kg/10 a	ニカメイチュウ等
7 月 31 日	ブラシンフロアブル	1,000 倍	いもち病, ごま葉枯病等
	バリダシン液剤 5	1,000 倍	紋枯病等
	パダン S G 水溶液	1,500 倍	ニカメイチュウ等
8 月 28 日	アブロード水和液	1,500 倍	ツマグロヨコバイ幼虫等
	MR. ジョーカー E W	2,000 倍	カメムシ, ウンカ等

第 11 表 水稻の除草剤散布実績

防除期日	薬剤名	散布量 (10 a 当たり)
6 月 8 日	半蔵 1 キロ粒剤 (一部水田)	1 kg
6 月 11 日	ショウリョク S 粒剤	3 kg
7 月 4 日	ハイカット 1 キロ粒剤 (水田 1 枚)	1 kg

第 12 表 過去 3 年間の玄米販売量

玄米袋数 (30 kg 入)	
2010 年	238
2011 年	271
2012 年	222

## 2. 生石農場

### 1) 黒毛和牛部門

担当 浦西章生, 谷口公則

今回の黒毛和牛出荷牛は、平成22年9月導入2頭、平成23年3月導入1頭をそれぞれ約18～20ヵ月で仕上げた。平成24年5月27日（学内販売）、6月20日（（株）伊勢屋）、11月18日（和歌山市フォルテワジマ内鳥久精肉店）の3か所にて近大おいし牛として販売を行った。（株）伊勢屋からは系列店である大阪府6店舗・兵庫1店舗で販売を行ってもらい、近大おいし牛のブランド推進に大きな成果をあげることができた。和歌山市内では伊勢屋フーズ・島橋精肉店・ダイニングくまの（レストラン）の3店舗で販売された。販売店舗数を増し、近大おいし牛のブランド推進と生石農場のアピールに貢献した。

今回、出荷した牛の肉質は全頭A4格付けであり、BMSナンバーは5～8であった。出荷牛全頭で格付けにばらつきがない肉質の牛を出荷できたことで肥育技術の向上の成果が認められる。また、今年度の売上合計金額は、2,978,173円となった（第13表）。

さらに、今年度は導入月を年2回にすることで出荷回数を年2回行った。これは前年以上に「近大おいし牛」の効果的なアピールとブランド化の推進を強化できたと考えられる。

現在、平成23年9月導入牛1頭、平成24年導入牛2頭の計3頭を肥育している。

第13表 黒毛和牛出荷状況表

出荷日	販売先	頭数	枝肉重量	格付け	BMS No,	出荷時体重 (kg)
平成24年5月27日	学内販売	1	447.6Kg	A4	8	715
平成24年6月20日	(株)伊勢屋	1	483.4Kg	A4	6	767
平成24年11月18日	鳥久精肉店	1	458.3Kg	A4	5	722
売上合計金額					2,978,173円	

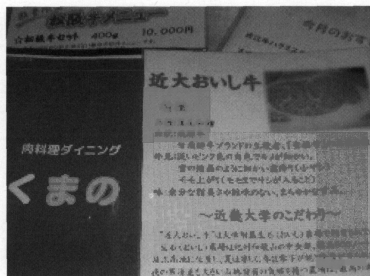


写真 平成24年度は、ダイニングくまの（和歌山市）で「近大おいし牛」を用いた料理を販売し、好評であった

## 2) 合鴨部門

担当 岩森明彦

## (1) 合鴨肉の販売状況

今年度(1月～12月)の合鴨肉の売上げは、722,594円であり、昨年度より201,138円の売り上げ増となった。出荷羽数153羽であったが肉量が足りないため、在庫切れの時期があった。販売は順調であり、平成24年11月より増羽し、需要対応を行う予定である。平成24年11月より合鴨舎の移動により、1回の導入羽数を80羽と倍に増やし、年間出荷羽数を300羽以上にする予定である。

第14表 合鴨出荷状況

雛導入日	導入羽数	飼育日数	出荷日	出荷羽数
H23年11月24日	43	70	2月1日	42
H24年2月9日	42	70	4月18日	35
H24年4月26日	43	71	7月5日	40
H24年7月12日	37	70	9月19日	36

※合鴨雛の導入は高橋人工孵化場より行った

## (2) 料理メニューとしての合鴨肉の試験販売について

平成22年11月より、有田川町ふるさと開発公社（あさぎり：有田川町清水，二川温泉白馬：有田川町二川）で、「近大おいし鴨」を使用した料理が販売されている。販売は順調で、一番の人気料理メニューは「近大おいし鴨なんばん」で、次に「近大おいし鴨丼」になっている。また、平成24年3月より、合鴨料理専門店（和歌山市）への販売を開始した。販売は順調であり、冬の季節に向けて、今後の売り上げが期待される。現在、合鴨肉を素材にした加工食品（つみれ、ハンバーグ等）の商品開発を進めている。

第15表 「近大おいし鴨」料理の売上げ状況（平成24年1月～11月）

おいし鴨丼	おいし鴨なんばん	おいし鴨小鍋	おいし鴨小鍋定食	おいし鴨鍋
123食	130食	12食	94食	1食

## 3) ミニブタ部門

担当 大碓靖之

平成24年はミニブタの分娩を1回、自然分娩で行った（第16表）。

分娩時での問題は発生せず、妊娠115日目で♀6頭を出産した。一部、飼育スペースの都合で処分したが、現在も順調に成長している。

第16表 ミニブタの生産状況

出産日	出産数	離乳日
平成24年9月4日	♀6頭	平成24年10月1日